

## あとがきに代えて

市町村にとって喫緊の課題であるFMをテーマに取り組み、無事、1年間の研究活動を終えることができました。

思い返せば、笹子トンネルの落下事故は、遠く離れた場所のニュースでしたが、身近なインフラやハコモノでも同様の問題が進行していることが明らかになった象徴的な出来事でした。このことを契機に、世間の関心事がFMに向き、行政関係者にとっては、限られた予算と人員で、これから途方もない大きな問題に取り組まなければならないという現実が突きつけられたのです。日本全体を見ると、少子高齢化に伴う人口減少、日本経済自体が低成長の時代に突入したことを踏まえると、かつての高度経済成長時代に比べると、決して恵まれた環境ではありません。しかし、こうした状況で、どのように考えるかは人それぞれです。例えるならば、コップの中に水が半分入っている状態をどう見るか。半分しか入っていないと見るのか、それとも半分も入っていると考えるのか。FM研究会のメンバーは後者のスタンスに立って積極的かつ果敢にこの問題に取り組んでこられたと思います。

他の事業もそうですが、様々な行政課題を提起し、現状を把握した後、次に取り組むべきは、全庁的な協力体制、推進体制の構築です。FMの仕事は管財課、財政課の仕事であるという縦割的思考パターンから脱却し、自分ごととして捉える視点が不可欠です。同時に、3年や5年という短期間のスパンではなく、30年、50年先を見据えた長期的観点も欠かせません。是非、本研究会の成果を契機に、全庁的な理解と協力を求め、一丸となって取り組める環境を整えて欲しいと思います。そのためには、全庁的に人材の育成にも取り組まなければなりません。

ハコモノに代表される建物の老朽化はどちらかといえば関心を集めやすいテーマかもしれませんが、老朽化した公共施設は市民サービスに大きな影響を及ぼしやすいことは直感的に理解されやすいのも事実です。しかし、目には見えにくい、道路の下に張り巡らされている上下水の管路に代表されるインフラも老朽化が進行しています。この研究会でご指導いただいた石原俊彦教授によれば、総務省が策定を要請した「公共施設等総合管理計画」では、ハコモノだけではなく、インフラも視野にいれなければならないことを度々ご指摘いただきました。今やFMだけではなくAM（アセットマネジメント）も求められているのです。

この1年間の成果は色々ありますが、FMやAMと聞けば、もはやラジオ放送のことではなく、公共施設やインフラの問題であるということはかなり浸透したのではないのでしょうか。研究会は終了しましたが、FMの取り組みは今、スタートラインに立った状態です。県内市町村のネットワークを生かしながら、WithUpの精神で是非、取り組んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、この研究会にご協力いただいたすべての方々に御礼申し上げます。とりわけ、こうしたタイムリーなテーマで調査研究事業を行うことができたのは、倉敷市企画財政部副参事 井上昇 氏及び長期修繕計画室主幹 三宅香織 氏のご尽力によるものであり、重ねて御礼を申し上げます。県内市町村の更なる発展を心より願っています。

岡山県 FM 研究会事務局

公益財団法人岡山県市町村振興協会 研修センター